

2022 年度（令和 4 年度）
豊中市立環境交流センター
事業報告書

特定非営利活動法人

とよなか市民環境会議アジェンダ 21

<目次>

1. 全体のまとめ	2
2. 施設の維持管理・運営体制	3
3. 管理運営業務の実施状況	
(1) 地球環境の保全等に関する活動のための交流の場の提供	9
(2) 地球環境の保全等に関する情報の収集及び提供	21
(3) 地球環境の保全等に関する講座等の開催及び啓発の実施	30
(4) 地球環境の保全等に関する会議、研修、催し等へのセンターの施設の提供	44
(5) その他	47
4. 施設の利用状況	50
5. 指定管理業務に係る経費の収支状況	54

【報告書内の表記について】

- ・参加者数に当団体の職員は含んでいません（注釈のある場合を除く）。
- ・当団体の会員とは、当団体で活動するボランティアの市民を意味しています。
- ・「3. 管理運営業務の実施状況」内の丸番号は、事業計画時の丸番号と一致しています。
そのため、事業計画に記載のなかった内容は、○としています。
- ・当団体の会計報告は、NPO 法の改正に伴い、活動決算書（活動計算書）となっていますが、指定管理業務の経費の収支状況は、表題から当団体の活動計算書と意味が異なるため、収支決算書と記載しています。

1. 全体のまとめ

環境交流センター（以下、「センター」という）は、2018年度から第2期の5年間でスタートし、特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21（以下、「当団体」という）が指定管理者として引き続き運営を担いました。

当団体は、「豊中市環境基本計画」と車の両輪のように位置づけられている、地球環境を守る市民・事業者・行政の行動計画「豊中アジェンダ21」を推進する組織として、豊中市域における持続可能な地域の実現をめざして、市民が主体となり、行政・事業者と連携して活動を行っています。センターの事業目的は、当団体が推進する「豊中アジェンダ21」の内容と一致するところであり、センターの運営を通して、「第3次豊中市環境基本計画」と「第3次豊中アジェンダ21」が共有する「望ましい環境都市像」の実現、および「第3次豊中アジェンダ21」の80項目の行動提案の達成をめざして、センターの管理・運営を行ってきました。

実施に際しては、リサイクル交流センターと環境情報サロンの機能統合という経過を踏まえ、市民や市民団体の集う場（環境プラットフォーム）として、市民が参加・参画した形での運営を行いました。さらに、環境活動に関心のある市民はもとより、環境問題に関心のない市民も気軽に立ち寄ることのできる場づくりの実施、および、多様な分野との連携もめざしました。センターの事業の一部は、当団体の各部会・プロジェクトのメンバー（ボランティアの市民）が中心となって企画・実施を行い、市民が市民に対して普及・啓発を行いました。

こうした中で、第2期の5年間は、「誰もが集える交流空間から」「気づきから実践に向けて」「地域と共に歩む施設へ」という3つのコンセプトを掲げ、以下のビジョンの達成をめざすこととしました。

「環境」は、家庭や地域、社会での生活そのものであり、生きていく中で必要不可欠なことである。そのことに気づき、自ら行動できる人を育てることや支えることで、地域で活動が実践されたり、「環境」への理解が広がる。

2013年度からの第1期は、多くの市民の利用者に対して「種をまく」期間であったのに対し、第2期は、まいた種を「いかに育てて・つないでいくか」という期間と位置づけました。種を育てていくにあたり、“環境＝家庭や社会での生活そのものであることを気づいてほしい”“気づいたことを周りに伝えてほしい”“学んだことが地域に広がってほしい”という考えのもと、各事業に取り組みました。

2022年度は施設の臨時休館や行事の中止などがなかったものの、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、施設の運営や事業の実施を行いました。また、条件付きではあるものの、フリースペースやキッズコーナーの利用を再開しました。また、2021年度に運営を開始したSNS（Twitter、Facebook）は体制を強化し、積極的にイベントの告知などを投稿しました。

2022年度の来場者数は15,763人、稼働率は69.9%、自然観察会やびったんこ隊miniなどのセンター外での取組みに対し、554人の参加がありました。2021年度のそれぞれの実績（11,900人、70.0%（実績値）、475人）と比べると、いずれの人数も増加し、稼働率は引き続き最高サービス水準を超えるなど、新型コロナウイルス感染症の流行以前に戻りつつあると言えます。

2. 施設の維持管理・運営体制

(1) 施設概要

- ・施設名 豊中市立環境交流センター
- ・所在地 豊中市中桜塚 1 丁目 24 番 20 号
- ・施設規模 床面積 658.97 m²
- ・開館時間 9 時～17 時
- ・休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
12 月 29 日～1 月 3 日
- ・貸室区分 9 時～12 時、13 時～17 時
- ・受付開始 目的利用：使用日 3 ヶ月前の月の初日から先着順（初日が休館日の場合は翌日から）
目的外利用：使用日 1 ヶ月前の月の初日から先着順（初日が休館日の場合は翌日から）
- ・貸室 会議室 1、会議室 2、展示スペース（会議室 1 は ABC の 3 つに分けることができる）

(2) 開館日数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
日数	26 日	26 日	26 日	27 日	26 日	26 日	
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
日数	26 日	26 日	24 日	24 日	24 日	27 日	308 日

(3) 運営体制

①職員

総括責任者 1 人、職務代理者 2 人（以上 3 人が常勤）、非常勤職員 2 人でセンターの運営にあたりました。この他に、センターに勤務をしないアルバイト職員も 2 人が、在宅での SNS 発信やイベント時のサポートなどを行いました。

②担当理事

センターの運営と当団体の活動がうまくリンクするため、および、運営に関する当団体の意思決定を円滑に進めるため、当団体理事の中から担当理事 5 人（理事職の総括責任者含む）を選出し、担当理事会を 2 回開催しました。

また、当団体の研修計画に基づき、災害や事故、病気等により職員の多数が出勤できなくなった場合、指定管理者として施設運営を継続するために、担当理事を対象に事業継続研修を 1 回実施しました。この研修では、職員から担当理事に対して、施設の開館・閉館作業や、窓口対応などを説明しました。

月日	9 月 12 日（月）	1 月 19 日（水）	2 月 16 日（木）	合計
参加者数	2 人	4 人	5 人	11 人

※9 月 12 日は担当理事対象の研修（事業継続研修）として実施

③研修の実施

職員の能力向上、および施設運営に必要な知識を得るため、当法人で策定した人材幾瀬基本方針、および 2022 年度の研修計画に基づき、研修の参加・実施を行いました。また、職員が自主的に受講する研修や、職員が講師となるための知識や技能を伝達するための研修も実施しました。

日時	内容	会場	研修の種類	参加者数
5月25日(水) 14:00～16:30	第6回神戸大学 SDGs フォーラム「本質的 SDGs～持続可能な事業推進のための SDGs～」	環境交流センター (オンライン参加)	自主的に受講する研修	1人
6月27日(月) 16:00～16:30	消防訓練	環境交流センター	基礎的な研修	5人
8月16日(火) 9:00～11:00	1年目研修	環境交流センター	専門的な研修	1人
8月19日(金) 10:00～12:00	政策形成のための研修(課題の整理と企画提案書の作成)	環境交流センター	専門的な研修	1人
10月15日(土) 15:30～17:00	新聞エコバッグの製作研修	環境交流センター	専門的な研修	2人
3月30日(木) 17:30～18:00	消防訓練	環境交流センター	基礎的な研修	3人
合計	6回			13人

※センター運営にあたった当団体職員のうちの参加人数

(参考) 研修の種類別の実施回数・人数

種類	回数	延べ人数
(1) 人権に関する研修	0回	0人
(2) 基礎的な研修	2回	8人
(3) 専門的な研修	3回	4人
(4) 自主的に受講する研修	1回	1人
(5) 資格取得に関する研修	0回	0人
合計	6回	13人

※研修計画に記載の事業継続研修は担当理事が対象のため、②担当理事の欄に記載

※人権に関する研修として、豊中市の人権問題事業者学習会には担当理事がオンラインで参加

④職員との意見交換

職員の働き方に関連して、当団体で作成した人材育成方針について、当団体の理事長・副理事長から職員への説明(2日間))を実施しました。また、理事長による各職員との面談を行いました。

職員との面談：3月3日(金)～5日(日)

人材育成方針について職員への説明：4月26日(火)、27日(水)

※勤務日等の関係で職員はいずれかの日程に参加

(4) 運営会議

業務の状況報告やモニタリング、管理運営の検討などを行うため、当団体職員と環境政策課で運営会議を環境交流センターにて毎月実施しました。

月日	4月20日(水)	5月18日(水)	6月23日(水)	8月9日(火)
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	2人	2人	2人

月日	8月24日(水)	9月22日(木)	10月25日(火)	11月15日(火)
当団体	7人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	2人	2人	3人
月日	12月23日(金)	1月17日(火)	2月17日(金)	3月24日(金)
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	1人	2人	2人

※7月は当団体の職員が新型コロナウイルス感染症の陽性となったため、8月9日に延期して実施

※8月24日の当団体の人数はインターンシップの大学生(5人)を含む

※3月24日はオンラインで実施

(5) 来場者アンケート

施設利用者に対するサービス改善、および指定管理者のモニタリング事項として、来場者アンケートを実施しました。結果については、別途提出した報告書の通りです。なお、毎年100枚以上の回収を目標としており、当初の期間に100枚に達しなかったため、期間を延長して実施しました。

・期 間：2月9日(木)～3月5日(日)

※当初は3月2日(木)までの予定であったが、期間を延長

・対 象：センターに来場した高校生以上の方

・回収数：100枚(目標数100枚)

・実施方法：受付への設置、および来場者への配布

・その他：回答者の中から抽選で10人に図書カード(500円)を進呈

2022年度は中学生以下を対象とした簡易なこどもアンケートは実施せず

(6) 設備点検・維持、および修繕

①設備の点検・維持(定期)

・床のワックスがけ(年3回)

・空調設備の点検(年4回)…業者による点検2回、職員による簡易点検2回

・自動扉の点検(年4回)

・消防設備の点検(年2回)

・屋根上の点検(年2回)…空調設備の簡易点検とあわせて実施

②設備や備品の修繕・追加

月日	内容
7月8日(金)	会議室1A 空調機器(室内機)のリニア膨張弁等取替
2月20日(月)	会議室1Aの照明器具(1台)の修繕(安定器の交換)
3月30日(木)	誘導灯のバッテリーの修繕(1か所)
3月31日(金)	受付内ブラインドの修繕(2か所)

③施設の維持

月日	内容
4月30日(土)	裏庭の草抜き
8月31日(水)	施設前のタイル清掃
9月3日(土)	裏庭の草抜きと枝の剪定

（７）安全管理対策の状況

①安全管理マニュアル

当団体の職員、および会員が生命身体に危険を及ぼす可能性のある作業を行う際の留意事項をまとめた「安全管理マニュアル」を作成・提出しました。同マニュアルは、当団体の職員全員、および該当する会員に配布するとともに、事務室や倉庫などの目立つ場所に掲示しました。

なお、2022 年度中に該当する対応はありませんでした。

②緊急時のマニュアル

急病・けが、交通事故、地震、不審者・不審物、火災、警報といった緊急時の対応をまとめたマニュアルを整備しています。

なお、2022 年度は急病等 1 件の発生があり、以下の対応を行いました。

月日	内容	対応
10 月 1 日（土）	地域こだわりマルシェ＆野菜市場の開催中、通りすがりの人がやってきて、近くで人が倒れて痙攣しているのを見てほしいと言われた。	職員が施設前の路地に見に行くと、倒れていた方は自力で起き上がっており、救急車を呼ぶことは断ったため、念のために施設で休んでもらった。発生当日に環境政策課の担当職員へ報告の連絡を入れるとともに、同日中に緊急時連絡メモを作成し、環境政策課へ提出した。

③賠償責任保険、行事保険

センターの来場者への責任を果たすため、賠償責任保険に加入しました。また、屋外で実施するイベントのうち、参加者が負傷する可能性があると思われる行事に対し、行事保険に加入しました。

なお、2022 年度中はいずれの保険も執行はありませんでした。

④新型コロナウイルス感染拡大予防に関する対応

【施設運営における主な対策】

- ・大阪コロナ追跡システムの QR コードの設置（施設の常設用）（12 月まで）
- ・施設利用者向けの掲示
- ・アルコール消毒液の設置
- ・受付周辺の対策
 - 飛沫防止対策のビニール設置
 - お金の受け渡しはプラスチック製のトレイを利用
- ・熱交換換気扇による換気の実施
- ・消毒の実施

【行事における主な対策】

- ・会場内での距離の確保
- ・検温の実施やアルコール消毒液の設置
- ・参加者名簿の作成（参加者受付のある行事）（9 月まで）
- ・大阪コロナ追跡システムの QR コードの設置（参加者受付のない行事）（12 月まで）
- ・出入口の一方通行（地域こだわりマルシェ＆野菜市場）（10 月まで）
- ・透明な衝立の設置（対面する場合）
- ・チェックリストの作成・掲示・保管

【施設利用者へのお願い】

- ・熱があるなど体調の優れない方はご欠席（ご帰宅）いただくこと
- ・マスクの着用など、咳エチケットを徹底すること（3月12日まで）
- ・手指のアルコール消毒か、手洗いをする
- ・大声での会話、握手などの相互接触をしないこと（大声は1月まで）
- ・参加者全員の名前や連絡先を責任者が取りまとめ、施設管理者へ提示すること（貸室利用者）（9月まで）

【チェックリストの作成・掲示・保管】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
件数	5件	6件	6件	9件	9件	6件	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	8件	7件	6件	5件	9件	11件	87件

【主な経過】

月日	内容
5月21日（土）	大阪府新型コロナ警戒信号が5月23日から緑色になることに伴い、貸室の利用条件（大声利用の定員など）に変更があるかを環境政策課に確認した。
5月23日（月）	環境政策課から貸室の利用条件に変更がない旨の回答があった。
6月22日（水）	環境政策課からチェックリスト（更新版）のデータの提供があり、準備等の関係で、7月分から更新版のデータを使用することとした。
8月23日（火）	環境政策課へチェックリストの最新版の確認を行い、環境政策課からチェックリスト（更新版）のデータの提供があった。準備等の関係で、9月分から更新版のデータを使用することとした。
9月22日（木）	環境政策課から貸室利用者の名簿の提示について不要との連絡があった。あわせて、環境政策課からチェックリスト（更新版）のデータの提供があった。
9月23日（金）	チェックリスト（更新版）の記載方法について環境政策課と確認し、準備等の関係で、10月分から更新版のデータを使用することとした。また、貸室利用者の名簿の提示不用の開始日等について、環境政策課と確認し、周知等の関係で、10月の貸室から不要とする旨を確認した。
9月30日（金）	貸室利用者向けの表示の変更案について、環境政策課と確認した。
2月1日（水）	貸室について、大声ありも定員100%利用になることを環境政策課と確認し、ホームページや館内掲示を更新した。
3月10日（金）	3月13日以降のマスク着用の考え方について環境政策課と確認した。
3月13日（月）	マスク着用に関する表示物等の修正、環境政策課への確認依頼を行った。
3月16日（木）	環境政策課から確認依頼した表示物等への最終の回答があった。

※行事の申込者、貸室の利用者、一般の問合せ、広報や掲出関係の対応等は記載せず

(8) クレーム・課題点

センターの運営の中で、確認された課題点について、適切に対応・改善しています。

月日	内容	対応
9月10日(土)	おもちゃ病院の際、施設の前付近で泣いている成人女性をアジェンダのインターンシップの大学生が発見した。おもちゃ病院にぬいぐるみのおもちゃを預けており、受け取りに来たところ、ご自身が想像していたとは違う形で修理がされていたとのこと。受付の時点で、お腹の部分を切った中の部品を出すことの説明は受けていたようだが、修理された後のお腹部分がテープで固定されるような形になっていたとのこと。	おもちゃ病院にあらためて手直しを依頼したらどうかと提案したが、ご本人が固辞されたため、おもちゃ病院に対してそうした対応があったことを伝えた。

(9) その他

①警察からの要請に対する協力

月日	内容
4月12日(火)	豊中警察署から、特殊詐欺の捜査関連で防犯カメラの映像確認の依頼があった。

②施設周辺や集いの広場に関する対応等

月日	内容	対応
7月2日(土)	施設前の道路脇に猫の死体があり、それを発見した通りがかりの市民から、警察では対処できないと言われたとセンターに相談があった。	職員が火葬場の死獣受付に連絡し、当日中に火葬場が引き取りに来た。また、通報を受けて現地へ確認に来た警察官から、猫の死体を入れる不用なダンボール箱やビニール袋の提供を依頼された。そこで、それらを提供するとともに、施設前のタイル部分に警察官が移動させた箱が開けられないように、周囲にカラーコーンを設置した。
8月11日(祝)	施設前の歩道に猫の死体があると、通りかかった市民からセンターへ相談があった。	12時半頃に職員が火葬場の死獣受付に連絡し、当日中に火葬場が引き取りに来た。

3. 管理運営業務の実施状況

(1) 地球環境の保全等に関する活動のための交流の場の提供

センターは日常的に人が訪れて、交流し、にぎわいがある場となることをめざして、日常的な取組み、行事など特定の日の取組みを複合的に実施し、多様な場づくりを行いました。

①ファンクラブ制度の運用

2014年4月から、センターに愛着を感じて応援してもらうファンクラブ制度の運用を開始しました。センターの取組みに協力していただける市民の方を登録し、メンバー証の発行、メールマガジンの配信、メンバー限定特典の提供などを行いました。2021年度末の登録者数 771 人に、新規登録と退会を合わせた 2022 年度末の登録者数は 773 人（大人メンバー692 人、ジュニアメンバー81 人）でした。

ファンクラブ制度では、ファンクラブメンバーが地域での活動の担い手となっていくことをめざしてきましたが、ファンクラブ制度を第 2 期で終了する方針へと変更したことから、2021 年度に実施したファンクラブメンバー企画は実施せず、ファンクラブ対象の交流企画のみを実施しました。

【ファンクラブの登録者数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規登録	1	2	2	8	3	4	4	0	0	0	1	1	26 人
退会	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	15	1	24 人

【メールマガジンの配信数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
配信数	307	307	305	305	305	307	307	307	307	307	307	307

【ファンクラブ対象の行事（ファンクラブ企画）】

日時	内容	参加者数
4 月 7 日（木） 14:00～16:00	2021 年度実施のふり返し会	5 人

※参加者数は、ファンクラブメンバーの人数

【ファンクラブ対象の行事（おしゃべり交流カフェ）】

日時	内容	参加者数
6 月 23 日（木） 10:00～12:00	おしゃべり交流カフェ	7 人
3 月 8 日（水） 10:00～12:00	おしゃべり交流カフェ	21 人
合計	2 回	28 人

※参加者数は当団体の会員を含む



<成果や工夫したこと>

- ・2021年度はおしゃべり交流カフェの参加者がいなかったことなどもあり、2022年度は早めに準備を進めて2回実施しました。参加者からはこうした交流の機会を続けてほしいという声などがありました。
- ・2021年度に来場者への呼びかけに注力し135件の登録を得ましたが、その後の効果としてはポイントカード利用にとどまっている状況です。2023年度からは、ファンクラブ制度のあり方を見直していくことを前提に内部で議論を進めました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・2021年度に「ファンクラブ企画」を実施し、その時点ではセンターへの関わりに前向きなメンバーも複数いましたが、その後に参加者自身の状況などに変化があり、関わりができないといった声なども寄せられたことから、不確定な要素が大きく、今後の方向性を考えていく必要があると言えます。
- ・センターに愛着を持ち、センターを利用してもらうということで始めた制度でしたが、10年近くが経過し、すでに登録している参加者の状況も変わってきていることから、ファンクラブ制度そのものを見直すこととしました。すでに登録してくれている参加者との関わり方が減ることがないように、事業等を実施していくことが必要です。

②ポイントカードの配布

ファンクラブメンバーを対象にポイントカードを配布し、センターの利用や行事の参加などに応じてポイントを付与し、ポイントが貯まれば景品を進呈しています。また、ジュニア（子ども）向けのポイントカードは、2018年度から新たな仕組みで運用しています。ポイントカードについて、2022年度中の景品の交換数は48件でした。

また、2020年7月にファンクラブ制度の内規の更新により、中学校の卒業以降は大人メンバーとしたことから、年度末に新たに大人メンバーへと切り替わるジュニアメンバーに対して、大人メンバーのポイントカードを送付していました。しかし、2023年度に入ってからファンクラブ制度の終了の案内をメンバー全員に送付することから、2022年度末は対象者への送付は行いませんでした。



<成果や工夫したこと>

- ・景品の交換数は2021年度の36件から2022年度の48件へと増加（回復）傾向にあります。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・ポイントカードの利用は一定数があり、センターへの来館の目的として定着していることから、ファンクラブ制度を終了しても同様のサービスを継続していくことが必要です。

③陶器とりかえコーナー

家庭で使わなくなった陶器を回収・展示し、希望する来場者が自由に持ち帰ることができるようにしました。赤ちゃんからの ESD が実施している「陶器とりかえ隊」の常設コーナーとして、当団体が日常的な管理や、とりかえの対応を行いました。2022 年度も新型コロナウイルス感染拡大予防のため、2021 年度に引き続き週 2 日程度に限って持ち込み分を受け入れました。

また、2018 年度から豊中市伊丹市クリーンランドの事業として、陶器を回収してリサイクルする事業（実証実験）に協力し、やむなく廃棄していた、とりかえできない陶器をクリーンランドへ提供しています。2022 年度中にクリーンランドへ陶器を提供する機会はありませんでした。



<成果や工夫したこと>

- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、2022 年度も引き続き回収した陶器をすべてアルコール消毒してから展示しました。また、展示場所では、陶器に触れる前に手指の消毒をするなどの協力を呼びかける掲示をしました。
- ・陶器の回収日については、毎月センターのお知らせに掲載し、センターのホームページや SNS でも発信しました。
- ・陶器の持ち帰りは非常に多く、陶器の回収日以外は陶器がほとんど置かれていない状況も多くあるくらいのニーズとなっています。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・新型コロナウイルス感染症対策が緩和されることに伴い、陶器の回収をいつでも受け入れられるようにするなどの変更を行っていきます。
- ・陶器の循環が早いことから、2015 年に実施した陶器の計量について、あらためて実施し、現状を把握していくことが考えられます。

④フリースペース・キッズコーナー・エコゲーム

展示スペースにテーブル・イスを設置して貸室利用がない時に予約なしに利用できるフリースペースと、子どもが靴を脱いで遊べるスペース（キッズコーナー）を設けています。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、2021 年度はイスのみを一部に設置し、使用方法などを限定して運用するとともに、2022 年度からのテーブルやキッズコーナーの再開に向けて、運用方法などの検討を行いました。

これを踏まえて、2022 年度は 4 月に子育て支援センターほっぺの見学を行い、検討した運用方法が子育て施設と違いがないことを確認できたことから、6 月 1 日からは利用時間や席数などの制限付きでテーブルやキッズコーナーを再開しました。

なお、エコゲームの貸出しについては、ゲームを通じて利用者同士の接触や距離の接近が見込まれることから、引き続き中止としました。



<成果や工夫したこと>

- ・新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、2022 年 6 月からフリースペースやキッズコーナーを再開しました。また、再開に向けては、子育て支援センターほっぺの見学を行い、検討した運用方法が子育て施設と違いがないことを確認しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・新型コロナウイルス感染症対策が緩和されることに伴い、キッズコーナーの絵本やおもちゃを自由に使うことができるようにするなど、新型コロナウイルス感染症の流行以前の状態に戻していきます。
- ・エコゲームは休止中も問合せが少なく、以前に利用していた子どもたちもセンターを利用しなくなったことから、エコゲームの貸出しのあり方についても検討が必要です。

⑥リサイクル工作

家庭の不用品や身近な材料を利用し、暮らしを便利にするような手作り工作を行いました。

日時	内容	講師	参加者数
8 月 10 日（水） 10:00～10:45 15:30～16:15	紙すきではがき作り	当団体職員	7 人
9 月 7 日（水） 10:00～13:00	子ども用サコッシュ作り	吉田まち子さん	10 人
11 月 1 日（火） 11 月 2 日（水） 10:00～15:00	制服の寸法直し（2 日連続講座）	吉田まち子さん	5 人
12 月 14 日（水） 10:00～10:50 11:00～11:50	アップサイクルのポーチを作ろう	坂井久美子さん（VVV-Craft）	3 人
合計	4 回		25 人

※参加者数は外部の講師を含む

※8 月 10 日の紙すきは、11:30～12:15、14:00～14:45 も実施予定であったが、参加者がいなかったため実施がなかった

※11 月 1 日、2 日の参加者数は両日の合計人数



<成果や工夫したこと>

- ・講師からの提案もあり、参加者がお直ししたい制服を持ち込み、そのお直しをサポートするといった企画を初めて実施しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・2022 年 4 月から広報とよなががリニューアルされ、掲載される行事の紙面が減少しました。これに伴い、リサイクル工作の募集をまったく載せることができなかったため、いずれも参加者が限られました。広報手段について、検討していく必要があります。

⑦リユースコーナー

豊中市伊丹市クリーンランドや豊中市家庭ごみ事業課と連携し、クリーンランドで回収したまだ使える家具や、豊中市臨時ごみリユース支援事業から提供を受けた家具などのリユース品を展示し、最終日に抽選会を行って、希望する市民へ提供しています。

2022 年度はそれぞれの連携先と 1 回ずつの実施を行うとともに、家庭ごみ事業課の抽選会についても対面による実施を再開しました。

期間	提供元	応募数	抽選会・抽選者	抽選方式
6 月 7 日（火）～ 7 月 3 日（日）	豊中市伊丹市クリーンランド	10 点すべてに 合計 45 件	7 月 3 日（日）14:00～ 参加者 32 人（スタッフ含む） クリーンランドが抽選	抽選会の参加者を優先
9 月 7 日（水）～ 30 日（金）	豊中市臨時ごみリユース支援事業	16 点中 12 点 に合計 46 件	10 月 1 日（土）14:00～ 参加者 1 人 センター職員が抽選	抽選会の参加に関わらない



＜成果や工夫したこと＞

- ・2021 年度から、リユースコーナーの展示品の写真をブログ等に掲載し、センターに来館しなくても、どのような物品が展示されているかわかるようにしましたが、2022 年度も引き続き実施しました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、2021 年度までは家庭ごみ事業課の意向もあり、豊中市臨時ごみリユース支援事業から提供を受けた家具の抽選会は非公開で抽選していましたが、2022 年度は公開での抽選へと戻しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・豊中市臨時ごみリユース支援事業からの提供の家具は、事前に調整して選んでいますが、実際には応募のなかったものが4点あり、家庭ごみ事業課への返却になりました。より多くの物品を市民に提供できるように、選出する家具の種類なども検討をしていきます。

⑧リユースバザー

参加する市民を募集し、家庭で使わなくなった衣服や生活用品を安く販売するリユースバザーを開催しています。地域こだわりマルシェ&野菜市場と一緒に実施することで集客を確保するとともに、定期的に古本市や省エネ相談会を同時開催することで複合的なにぎわいを作り出すようにしています。2022 年度は新型コロナウイルス感染拡大予防として会場内の距離を確保するため、出店の条件や入場制限などを行いながら、同時開催の企画なしで不定期に実施を行いました。

また、子どもが主体となったバザーの機会として、えこっ子フリマ（子ども店長による子どもの物品を販売するバザー）を親子ぐるぐるフェスにおいて実施しています。子ども主体の実施となり、会場内の距離を確保するのが困難なため、えこっ子フリマは 2022 年度も中止としました。

月日	出店数	参加者数
4 月 16 日（土）	8 店	94 人
7 月 30 日（土）	9 店	63 人
10 月 15 日（土）	10 店	104 人
3 月 18 日（土）	9 店	73 人
合計	36 店	334 人

※時間はいずれも 10:00～13:00 で実施

※2022 年度は同時開催のイベント等はなし



＜成果や工夫したこと＞

- ・新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、2021 年度途中から再開しましたが、2022 年度は出店数を少し増やしながら、4 回の実施を行うことができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・4 回中 3 回は参加者が 100 人に満たないなど、再開した 2021 年度よりもさらに少ない人数となりました。地域こだわりマルシェ&野菜市場と一緒にの実施に戻すなど、参加者を増やす方策の検討が必要です。
- ・親子ぐるぐるフェス内で実施していたえこっ子フリマの開催ができないままになっています。引き続き、今後のあり方について検討する必要があります。

⑨親子フェスティバル

未就学児から小学生くらいの子どもと、その保護者を対象に、3R の行動を通してモノと向き合い、モノを大切に作る習慣と、ごみの減量を意識したくらしを考えるための参加・体験型イベント「親子ぐるぐるフェス」として開催しています。モノへの思いをメッセージカードに添えて次に使う人へ販売する「えこっ子フリマ」、制服・学用品の販売や絵本の交換会を通して出展者と参加者の交流をはかるとともに、他団体と連携して絵本の読み語りやリサイクル工作なども一緒に開催しています。

2022 年度は新型コロナウイルス感染拡大予防によるイベントの名簿作成が不要となった期間に開催したことから、会場内の参加者等の距離を適切に保ちながら実施しました。

日時	内容	参加者数
9 月 6 日（火）～30 日（金）	絵本の回収	—
10 月 1 日（土）～29 日（土）	フタつき空きびんの回収	—
10 月 30 日（日）13:00～15:30	親子ぐるぐるフェスの開催	150 人

※参加者数は出店者を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・開催前に毎年実施している絵本の回収に加えて、リサイクル工作で不用になった空きびんを使用するため、センターで期間を設けて回収しました。
- ・2021 年度よりも参加人数が回復し、にぎわいのある場を作ることができました。
- ・2021 年度は新型コロナウイルス感染症対策として、事前申込みによる 2 部制で実施しましたが、2022 年度はイベントの名簿作成が不要となった期間に会場内の参加者等の距離を適切に保ちながら開催するなど、直近の状況を踏まえた運営を行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・親子ぐるぐるフェス内で実施していたえこっ子フリマの開催ができないままになっています。引き続き、今後のあり方について検討する必要があります。

⑪地域こだわりマルシェ＆野菜市場

地産地消および循環型社会の推進のため、とよっぴーで育てた豊中産の野菜などを有料配布しました。また、「豊中市小売商業団体連合会」と連携し、環境や健康に配慮し、こだわりを持って地域で商いをしているお店の商品も販売しました。

月日	4月2日	5月7日	6月4日	7月2日	8月6日	9月3日	
参加者数	68人	78人	61人	65人	41人	52人	
月日	10月1日	11月5日	12月3日	1月7日	2月4日	3月4日	合計
参加者数	46人	53人	45人	45人	42人	69人	665人

※いずれも土曜の10:00～11:00で実施

※参加者数は販売のスタッフを含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・参加者の負担軽減のため、新型コロナウイルス感染症の流行前に実施していた整理券方式を再開しつつ、整理券を受け取った参加者が販売開始まで待機場所で座って待っても、開始時間に戻ってきても、どちらでも良いようにしました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・農家の野菜の納入状況や、豊中市小売商業団体連合会の参加店舗数の減少の影響もあってか、参加者数が伸び悩んでいます。また、ボランティアメンバーで実施していた近隣のチラシポスティングが難しくなっており、今後は商品の充実や開催のPRなどについての検討が必要です。

⑫自然工作

豊中産の自然素材（竹や小枝など）を使って、自然工作を実施しました。また、工作の過程や、できた工作物（おもちゃ）で遊ぶことを通じて、長らく自然環境の保全に取り組むシニアと、次世代の子どもたちの交流をはかりました。

日時	内容	講師	参加者数
8月11日（祝） 10:00～11:30	豊中産の竹で作るウグイス笛とセ ミ太郎	当団体の自然部会・竹炭プロ ジェクトのメンバー	29人
12月10日（土） 10:30～12:00	豊中の竹で作るキラキラ万華鏡		33人
合計	2回		62人

※参加者数は当団体の会員を含む



<成果や工夫したこと>

- ・新型コロナウイルス感染拡大予防のため、定員を少なくする、親子ごとに着席し、対面はパーティションで区切るなどの対策を引き続き実施しました。
- ・単に工作をするだけでなく、ボランティアのシニアと一緒に材料となる竹を切るなど、普段はできない体験の機会づくりを継続しています。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・より多くの参加者に体験してもらえるように、センター以外での開催も含めて検討していきます。

⑬おもちゃ病院

とよなか・おもちゃ病院と連携し、モノを長く使ってもらうため、壊れたおもちゃを修理する場を作りました。その場で修理できなかったおもちゃは、入院として一時預かりを行い、とよなか・おもちゃ病院が修理後、持ち込んだ方へお返ししました。

月日	4月9日	5月14日	6月11日	7月9日	8月13日	9月10日	
参加者数	37人	45人	34人	32人	34人	34人	
月日	10月8日	11月12日	12月10日	1月14日	2月11日	3月11日	合計
参加者数	36人	30人	33人	31人	53人	47人	446人

※いずれもすべて土曜の 10:00～11:30 で実施

※参加者数は講師を含む



<成果や工夫したこと>

- ・毎月の開催が定着しつつあります。2022 年度からは広報とよなかへの掲載が隔月になったものの、毎月安定した参加者数となっています。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・ぬいぐるみのおもちゃを預けていた参加者に、お腹の部分を切って中の部品を出す説明はしていたがご自身が想像していたのとは違う形で修理がされていたケースがありました。ボランティアの市民グループができることの限界もあり、センターとしても説明をしていくことが考えられます。

⑭おはなし会「わにわに」

未就学児と保護者を対象にした絵本の読み語りを開催しました。環境につながる絵本を取り入れることや、簡単な手づくり工作をセットで行うことで、若い親子世代が環境やリサイクルに親しんでもらう機会としています。

2022年度は偶数月に5回実施するとともに、10月30日の親子ぐるぐるフェスの企画の1つとしても実施しました。

月日	6月12日	8月7日	10月9日	10月30日	12月18日	2月12日	合計
参加者数	16人	16人	8人	34人	10人	7人	91人

※いずれも日曜、単独開催は10:30～11:30で実施

※当団体の企画屋本舗プロジェクトが実施（参加者数は企画屋本舗の担当者を含む）

※10月30日は親子ぐるぐるフェスにて実施



＜成果や工夫したこと＞

- ・2021年度途中で再開した家族単位での手作り工作を継続し、若い親子世代が環境やリサイクルに親しんでもらう機会作りを継続することができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・2022年度から広報とよなかの紙面が減ったことで、掲載できなかった回の参加者がかなり少なくなっています。広報とよなか以外でのPR方法を検討していく必要があります。

⑮環境映画祭

「あしたの暮らしとよなか」と連携し、2014～2016年度に「種まきシアター」と題して、持続可能な地域をテーマにしたミニシアター系の映像上映と参加者同士の意見交換の場づくりを行って来ました。2017年度からは「あしたの暮らしとよなか」が自立し、センターで独自に実施しています。2019年度からは、あしたの暮らしとよなかとの共催により「ちょっとロハスな映画祭」と題した映画祭を開催しています。複数の映画を上映し、ロハスな企画をあわせて実施することで、関心の裾野を広げ、新たな層の参加者の獲得につなげる機会としています。

2022年度は1日だけの開催とし、「土」をテーマにした3作品を上映しました。

日時	内容	参加者数
1月21日（土） 9:30～17:00	第4回ちょっとロハスな映画祭 上映作品 「杜人」 「君の根は。大地再生にいどむ人びと」 「川口由一の自然農というしあわせ with 辻信一」 プチロハスマルシェなど	101人

※参加者数は共催団体の関係者などを含む

※一時保育は子ども1人で参加者数に含む



<成果や工夫したこと>

- ・1回のみの上映となった「川口由一の自然農というしあわせ with 辻信一」が満席となるなど、多くの人に参加してもらう機会となりました。
- ・メインの上映作品である「杜人」は、小学生以下の子連れ可の会と、中学生以上が入場可の会を設けて、各自のニーズに合わせた参加ができるようにしました。
- ・共催のあしたの暮らしとよなかのネットワークで知った参加者も多く、センターに来たことがない方が初めて来館する機会にもつながっています。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・複数の映画を同時に見られることを強みとしているものの、事前申込みで満席になった作品もあれば、まだまだゆとりのある作品・会場もありました。今後の開催では、上映枠の設定なども考慮していくことが考えられます。

○当初の事業計画以外の取組み

年度当初の事業計画では予定していなかったものの、リユースコーナーとあわせて、豊中市伊丹市クリーンランドと連携した取組みを実施しました。

日時	内容	参加者数
7月3日（日） 13:00～13:45	クリーンランド市民講座（ペットボトルキャップで小物入れ作り）	9人
7月3日（日） 13:45～14:00	クリーンランド出前講座	15人

※参加者数はクリーンランド関係のスタッフを含む



(2) 地球環境の保全等に関する情報の収集及び提供

環境問題そのものの情報から、環境活動や環境イベントに関する情報の収集・提供・発信、環境情報に関する問合せ対応、図書の閲覧・貸出、センターに関する情報の提供・発信など、さまざまな形で取り組みました。

①ホームページ・SNS の運営

オリジナルのドメインによる、センターのホームページを管理し、施設情報・イベント・環境情報などを発信しました。さらに、ホームページの運営の一環として、スタッフブログを更新しました。

また、2021年7月1日から、新たにSNS（Twitter、Facebook）の運営開始を開始し、2022年度も引き続き運営・投稿を行いました。

	投稿数	アクセス数	フォロワー数
ホームページ	—	23,997（ページビュー）	—
ブログ	17 件	—	—
Twitter	520 件	89,057（インプレッション）	192 人
Facebook	295 件	4,848（リーチ）	112 人

※フォロワー数は2023年3月31日現在

※ページビュー：WEB ページ内のページを見た合計数（1人が複数回見たら重複カウント）

インプレッション：各投稿を閲覧した回数の合計（1つの投稿を1人が複数回見たら重複カウント）

リーチ：各投稿を閲覧した回数の合計（1つの投稿を1人が複数回見ても1カウントのみ）

ホームページアドレス <https://kankyokoryu.jp/>

ブログアドレス <http://staffblog.kankyokoryu.jp/>

Twitter アドレス <https://twitter.com/kankyokoryu>

Facebook アドレス <https://www.facebook.com/kankyokoryu>



＜成果や工夫したこと＞

- ・2022年度のページビュー数は23,997で、2021年度の20,767ページから増加しています（ブログページは除く）。一方、ブログの更新件数は17件で、2021年度の23件を下回りました。
- ・SNSの投稿をメインに対応するアルバイト職員を採用し、リツイートも含めた投稿件数を2021年度から5～6倍程度まで増やすことができました。
- ・SNSの投稿数の増加の効果もあり、2021年7月から開始したTwitter、Facebookのフォロワー数は、Twitterが97人→192人、Facebookが79人→112人へと着実に増加しています。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・SNSへの投稿が増大した一方で、ブログの件数は減少しました。ツールごとの役割や効果を整理し、対応していくことが必要と考えられます。

②環境交流センターのおしらせ

センターの行事や案内を、「環境交流センターのおしらせ」としてチラシにまとめて毎月発行し、センター内での掲示や来場者への配布を行うとともに、環境交流センターのホームページでも公開しました。2018年6月からはデザインをリニューアルし、各月の情報量に応じて、A4サイズ2ページ、または4ページの構成としています。2019年度からは、公共施設への一斉配架を取りやめ、毎月利用者が取りに来る一部の施設のみの配架としています。

また、お知らせに掲載している内容は、豊中市立図書館のメールマガジンへ情報提供し、配信・掲載を通して広く周知しました。



＜成果や工夫したこと＞

- ・2022年度から広報とよなかのリニューアルにより紙面が限られるようになったため、広報に載らない行事も含めて案内をしました。
- ・陶器の持ち込み日を引き続き掲載し、来場者にはセンターのおしらせを渡して持ち込み日を案内しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・引き続き毎月の作成・発行を適切に行っていきます。

③リーフレットの配布

来場者や行事参加者に対して、必要に応じてセンターのリーフレットを配布しました。



<成果や工夫したこと>

- ・リーフレットの内容に変更部分が増えてきたため、該当部分にシールを貼って修正し、引き続き利用をしました。
- ・2021年度末にネーミングライツ制度が終了となり、2022年度に新たなリーフレットを作成する予定でしたが、残部が多いことや第2期の終了年度であることから、新規作成をせずに修正した既存の配布で対応しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・第3期の開始となる2023年度は新たなリーフレットを作成・配布していく予定です。

④多様な媒体や手法による情報の発信

環境交流センターのおしらせの内容について、ファンクラブメンバーを対象にメールマガジンを発行しました。また、豊中市立図書館のメールマガジンについて、原則として月末に翌月の情報を提供し、図書館にて月初めに当月分の配信をしていただく形で広く周知しています。

さらに、広く参加を呼びかけるイベントなどについては、民間が運営するイベント告知ページへのイベント情報の掲載を行いました。

<成果や工夫したこと>

- ・豊中市立図書館とも連携し、毎月着実に情報の提供等を行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・今後も引き続き多様な媒体を通して情報の発信を行っていきます。

⑤環境ギャラリー

環境交流センターの展示スペースを活用し、環境にまつわる展示を行っています。2022年度も指定管理事業に関するものや、豊中の自然をテーマとしたものなどを紹介しました。

期間	内容	団体
5月8日（日）～ 6月2日（木）	豊中の自然展「カエル調査・豊中2020」	当団体の自然部会
7月6日（水）～ 27日（水）	手作り暮らしの図書展	—
10月4日（火）～ 26日（水）	事業者のSDGs活動の展示	当団体の事業部会

1月4日（水）～ 14日（土）	春の七草展	当団体の自然部会
1月25日（水）～ 2月22日（水）	あの日を忘れない！～いのちと環境を守り、未来につなごう～	福島プロジェクト豊中



＜成果や工夫したこと＞

- ・2022年度も事業者のSDGs活動に関する展示を行い、事業者の取組みを紹介する機会を作ることができました。
- ・豊中の自然に関して、センターでは初めて春の七草に関する展示を行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・センターの来場者に対して、環境の内容を目にとめてもらう機会として、引き続き環境にまつわる展示を行っていきます。

⑥身近な生き物調査

自然に関心のある市民を調査員として募集し、市民による豊中市内の自然調査を実施しています。

2022年度は、2017年度から5年ぶりに水鳥一斉調査を実施しました。

実施日	内容	場所	参加者数
12月9日（金）～ 20日（火）	事前打合せ（2回）	環境交流センター	10人
1月14日（土） 13:30～15:30	調査説明会	蛸池公民館	21人
1月22日（日）	水鳥一斉調査	36池、11河川	33人
2月5日（日）～ 3月19日（日）	結果まとめ作業、編集会議、冊子作成 （10回）	環境交流センター	48人
3月21日（祝） 14:00～16:00	調査報告会	環境交流センター	21人
合計	15回		133人

※当団体の自然部会が実施

※調査員数 33人



<成果や工夫したこと>

- ・調査日は1日だけであるとはいえ、同日に調査員が10班に分かれて、市内で一斉に調査しました。調査員として、刀根山高校生物エコ部の部員の皆さんにも参加してもらうことができました。
- ・定期的に調査をすることで、過去の調査結果との比較ができます。5年前の調査時よりも市内の池の数が減ったものの、確認された水鳥の数は1,287羽→1,454羽へと増加していることがわかりました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・今回は市民調査員として高校生が参加してくれたように、今後もさまざまな年代の市民が調査に参加してもらえるよう、調査のテーマやPRなども考えていく必要があります。
- ・5年前の調査よりも水鳥の数が増えたとはいえ、それ以前の2004年、2012年の調査時よりも水鳥の数は少ないことや、市内の池の数は今後さらに減っていくと考えられることから、今後も市内の自然環境に注意を払う必要があると考えられます。

⑦図書などの閲覧・貸出し

環境に関する図書や資料を設置し、図書・資料室にて閲覧スペースを設けるとともに、利用者が希望する図書などについて、内規に基づき貸出しを行いました。さらに、閲覧・貸出しを促進するため、環境ギャラリーの一環として、図書をテーマとした展示も実施しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
貸出件数	2	0	3	3	4	2	0	1	3	2	3	1	24件
貸出冊数	2	0	5	7	16	7	0	1	3	2	12	1	56冊

※図書をテーマとした展示は、(2) ⑤環境ギャラリーに記載



＜成果や工夫したこと＞

- ・貸出件数は 24 件 56 冊で、2021 年度の 34 件 64 冊からやや減少しました。その一方で、同じ方が定期的に借りるケースなども見られるようになってきています。
- ・職員研修などを目的に DVD の貸出しが一定あることから、2022 年度も映像系の購入を行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、キッズコーナーに設置の図書の閲覧は再開しておらず、通常の図書の閲覧は可能であるものの、積極的に呼びかけにくい状況もあります。新型コロナウイルス感染症対策が緩和されることに伴い、図書についてもより PR していくことが考えられます。

⑧学生の実環境活動の支援

環境活動に関心ある学生が学びを深めるため、環境活動に関わる学生の活動支援などを行いました。

日時	内容
5 月 20 日（金） 10:30～11:00	京都府立大学社会福祉学科の 2 年生（1 人）が来館し、大学の課題として「市民が利用できる地域資源」について調べているとのこと。職員からセンターの機能や取組みなどを説明
8 月 5 日（金） 14:00～14:30	減量計画課のインターンシップ生の受け入れ
2 月 24 日（金） 13:20～16:00	大阪大学環境サークル GECS の総会出席



＜成果や工夫したこと＞

- ・大学生は、アポイントもなく突然の来館でしたが、職員が適切に対応しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・今後も学生側のニーズなどに応じて支援を行っていきます。

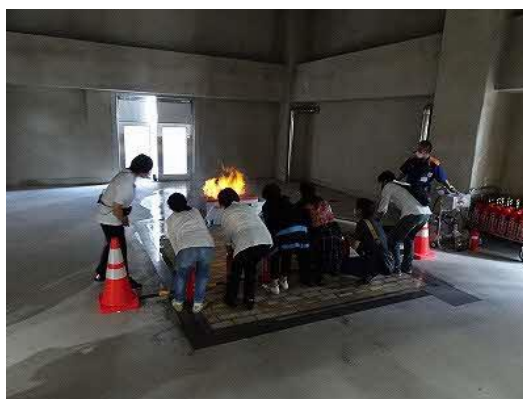
⑨地域との連携強化

センターがある南桜塚校区の地域自治組織（南桜塚校区地域連絡協議会）に 2018 年 4 月の総会から当団体として正式に加盟しています。協議会の一員としての役割を果たすことを通じて、地元地域との連携を強化し、地域でのセンターの理解向上へとつなげていくことをめざして参加したものです。なお、協議会の加盟団体は、防犯部会か防災部会のいずれかに参加することとなっており、当団体では引き続き防災部会に所属しました。

また、豊中市社会福祉協議会の地域福祉ネットワーク会議への参加を通じて、豊中市内の地域団体とのつながりを拡げることができました。

【南桜塚校区地域連絡協議会】

項目	日時	内容	場所	備考
全体	4月24日（日）19:00～20:00	総会	南桜塚会館	
	1月14日（土）18:00～20:00	新年互例会	うを浅	
	5月29日（日）19:00～20:00	運営委員会	南桜塚会館	
	10月23日（日）19:00～20:00			
	1月29日（日）19:00～20:00			
	3月26日（日）19:00～20:00			
防災部会	5月21日（土）19:30～21:00	防災部会	南桜塚会館	
	9月17日（土）19:30～21:30			
	10月15日（土）19:30～21:00			
	11月19日（土）19:30～21:00			
	1月21日（土）19:30～21:00			
	3月18日（土）19:30～21:00			
防災部会	9月10日（土）8:30～17:00	防災セミナー	堺市総合防災センター	
	11月23日（祝）	防災訓練	南桜塚小学校	雨天中止
	2月4日（土）10:00～12:00	防災研修会	南桜塚小学校	
防犯部会	10月12日（水）15:00～16:00	子ども見守り	下原公園	
	2月22日（水）15:00～16:00	活動隊		



【地域福祉ネットワーク会議】

月日	エリア	場所
7月21日（木）14:00～15:30	中部	オンライン
7月28日（木）14:00～15:30	北中部	
2月24日（金）14:00～16:00	中西部	中央公民館
2月28日（火）14:00～16:00	中部	市役所別館

＜成果や工夫したこと＞

- ・南桜塚校区地域連絡協議会では、運営委員会や防災部会への参加を通して、引き続き協議会の一員としての役割を果たしました。
- ・南桜塚校区地域連絡協議会の規約改正が構成団体から不評であったため、当団体から規約の改善案を提案しました。また、同協議会の役員会にて検討した後、コミュニティ政策課で規約の精査を行う際には、コミュニティ政策課からの投げかけにより、個別の打合せを複数回行いました。

- ・地域福祉ネットワーク会議は、上半期がオンライン、下半期が対面でしたが、以前のように夏と冬に開催され、従来と同程度に参加しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・引き続き協議会や行事への参加を通して、地域との連携強化を進めていきます。

⑩近隣団体・環境団体との連携

センターに勤務する当団体職員が、定期的に近隣の行政や環境団体と交流をはかり、近隣や広域の環境情報を把握するとともに、必要に応じて情報の提供・発信を行っています。2022年度は、特定の行事への参加などはありませんでしたが、各地の環境団体や関係者と断続的に情報交流を行いました。

＜成果や工夫したこと＞

- ・各地の環境団体や関係者との情報交流を通じて、現状を把握しました。
- ・当団体への訪問に来られた環境団体に対して、センターの紹介を行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・本事業における近隣団体・環境団体との連携のあり方についてどのような形が望ましいのか、第3期からについて検討していくことが必要です。

⑪施設内での情報提供

豊中市内外の環境イベントや環境に関する情報について、収集・提供・発信しました。

具体的には、センターに寄せられたポスターやチラシの掲示・配架を行うとともに、センターを利用して行われる行事チラシを掲示しました。

市民からの問合せや、来場者による環境情報の提供などを行いました。2022年度の相談件数は28件で、2021年度の24件と同程度でした。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	3	1	2	3	3	2	1	5	1	3	3	1	28件

※各月の数字は相談件数

※センターの行事に関する問合せや当団体に対する問合せは含んでいない



＜成果や工夫したこと＞

- ・2021年度に実施した施設デザインの見直し内容を継続し、引き続き自動扉を入った付近やガラス越しにポスター等の掲示を行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・市民からの問合せは2021年度の24件と同程度ですが、2020年度以前と比べると低調のままです。センターでの問合せ対応について、利用者にPRしていくことが考えられます。

⑫メディアへの情報の発信

これまでも施設の取り組みについて、FM 千里（コミュニティ FM のラジオ局）の生放送、ケーブルテレビ（J:COM）の取材、「TNN 豊中報道。2」への紹介など、メディアの取材や対応を行ってきました。2022 年度もメディアへの情報発信などを行いました。生放送などの対応はありませんでした。一方で、行事の開催について新聞へ掲載してもらうことができました。

月日	内容
7 月 15 日（金）	読売新聞朝刊（地域版のページのイベント情報）へ行事の掲載 （7 月 23 日（土）とよなかシネコン For kids の告知）

＜成果や工夫したこと＞

- ・センターの行事について「TNN 豊中報道。2」などへ継続して情報提供を行いました。
- ・とよなかシネコンとして公共施設が連携して映画上映を行いました。センターの上映分のみを新聞に掲載してもらうことができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・読売新聞への掲載は、センターなどからの投げ込みではなく、新聞社側が情報を把握して掲載してくれたものでした。今後は主体的な案内等も含めた対応の検討が必要と考えられます。

（３）地球環境の保全等に関する講座等の開催及び啓発の実施

地球環境の保全等につなげるため、関連する内容の講座や普及啓発を行いました。また、これまで豊中市が主体となっていた啓発事業を引き継いで実施するとともに、これまでも当団体が市と協働で進めてきた自然環境啓発や循環型社会推進についても取り組みました。

①環境基本計画の啓発展示

当団体はセンターの運営を通して、「豊中市環境基本計画」と「豊中アジェンダ 21」が共有する「望ましい環境像」の実現、および「豊中アジェンダ 21」の行動提案の達成をめざして事業を実施しており、環境基本計画の普及・啓発を目的とした展示を通して、市民の環境基本計画への理解を深めていくことをめざしました。

具体的には、環境基本計画の内容などについて、クイズ形式での展示を行い、解答用紙に記入・応募すると抽選で図書カードを進呈しました。あわせて、環境基本計画に関するアンケートを実施し、市民の実態把握にも努めました。

期間	内容
3月7日（火）～ 26日（日）	クイズでわかる環境基本計画 パネル展示とクイズの実施 環境基本計画に関するアンケートの実施 参加者アンケート 6枚回収 ※アンケート回答者の中から抽選で5人に図書カード（500円）を進呈



＜成果や工夫したこと＞

- ・とよなか市民環境展 2022 の企画展示で、生物多様性や豊中の自然環境に関する展示を行ったことから、環境基本計画の内容と関連して、環境展で使用した展示内容も一緒に紹介しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・内容が難しいこともあってか、2021 年度の引き続きアンケートの回収数が非常に少なくなっています。展示内容や参加者への呼びかけなどを見直していくことが必要です。

②地球温暖化防止講演会

地球温暖化防止の普及啓発を目的に、地球温暖化防止の講演会を開催しました。また、環境政策課と連携し、「とよなかエコ市民賞」の表彰式を同時開催しました。

2022 年度は、2018 年度の続編として 4 年ぶりに演劇公演と劇団員によるトークセッションを行いました。

日時	内容	参加者数
2月25日(土) 13:00～15:30	第1部 第16回とよなかエコ市民賞表彰式・活動発表 第2部 演劇公演「地球の秘密」(劇団“萌”)	78人

※参加者数は当団体の会員やスタッフ、出演者、市職員などを含む

※時間や参加者数は第1部を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・2018年度の地球温暖化防止イベントの劇団員によるトークセッションの中で「次は4年後に続編を公演しましょう」という約束を行ったが、実際に4年後に続編の公演を行うことができた。
- ・脚本を書き下ろしてもらったことで、豊中市の地球温暖化対策を盛り込んだ内容にでき、参加者からもとても好評でした。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・とよなか市民環境会議などが主催のエコ市民賞の表彰式と、指定管理事業での地球温暖化防止講演会の同時開催として10年前から続けてきましたが、第3期以降も同様の形を続けるのかについて整理していく必要があります。

③暮らしやモノを考える講座

家庭の暮らしにつながる講座として、2022年度は整理収納・布なぶきん・みどりのカーテンの3つのテーマを実施しました。

整理収納は2014年度からの継続として、自分の暮らしにおける生活用品の適量を把握し、モノの手放し方を学ぶ機会とし、情報交換を通して主体的に学びあう場を提供しています。2019年度からは半年間の講座としています。布なぶきんは、受付で常設販売している布なぶきんの製作者を講師として、体に優しい手作り品を通してごみや体を考える機会として開催しました。みどりのカーテンは、緑化による省エネの推進として、花とみどりの相談所や、豊中みどりの交流会などと連携し、ゴーヤの栽培に関する講習会を開催しました。

【整理収納サークル】

月日	内容	講師	参加者数	一時保育
5月19日	上半期（連続講座）	尾山敬子さん （整理収納アドバイザー）	5人	0人
6月16日			4人	0人
7月21日			6人	0人
8月18日	同窓会		—	—
9月15日	上半期（連続講座）		3人	0人
10月20日			5人	0人

11 月 17 日	下半期（連続講座）		5 人	0 人
12 月 15 日			4 人	0 人
1 月 19 日			3 人	0 人
2 月 16 日			0 人	0 人
3 月 16 日			5 人	0 人
合計	10 回		40 人	0 人

※いずれも木曜の10:00～12:00で実施（連続講座の初回のみ9:30～新参加者へ事前説明）

※同窓会を8月18日（木）に計画したが、参加者が予定人数に達しなかったため中止

※2月16日は開催予定であったが、講師以外の参加者全員が欠席となった

※参加者数は講師を含む（2月16日を除く）



<成果や工夫したこと>

- ・連続講座の途中で離脱する参加者が多いことから、これまでは来館して説明を受けた方のみを申込受付していましたが、参加者の負担軽減のため、電話での受付に変更しました。
- ・一時保育は1歳からの子どもが対象ですが、生後数か月の子ども連れでの参加希望があり、講師や他の参加者の了解を得て、子ども同伴で講座に参加してもらう形としました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・2022年度からの広報とよなかのリニューアルに伴い、1回分の募集が掲載できませんでした。チラシの作成・配架などの対策を行いましたが、引き続き多様な広報で参加者を募集することが必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、年1回開催の同窓会の参加状況が読めなかったことから、講師を除いて4人以上の申込みで開催することとして対象者に案内しました。結果的に人数に達しなかったため同窓会は中止と判断しました。

【布なぷきん】

日時	内容	講師	参加者数	一時保育
11月20日（日） 10:00～11:30	繰り返し使える小豆カイロ作り	USAGIGUMOさん （北摂手作りの会）	10人	0人



<成果や工夫したこと>

- ・2020～2021 年度は Zoom を活用し、講師がオンラインで会場の参加者にレクチャーする方法を試行しましたが、対面の方が講師もレクチャーしやすいとのことで、2022 年度は対面での開催に戻しました。
- ・小さい子どもがいる方から直前に申込みがあり、一時保育の利用が間に合わなかったため、子ども同伴で一緒に参加してもらう形で対応しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・2022 年度は一定の参加を得られましたが、参加者の確保が引き続き課題となっています。新型コロナウイルス感染症の流行以降はセンターでの布なぷきんの購入者も相対的に減っており、今後の参加者増に向けた工夫を考えていく必要があります。

【みどりのカーテン】

日時	内容	講師	参加者数
5 月 20 日（金） 10:00～11:30	ゴーヤで緑のカーテン作り	豊中みどりの交流会 豊中緑化リーダー会	10 人

※参加者数は講師や市職員を含む



<成果や工夫したこと>

- ・新型コロナウイルス感染症による臨時休館により、2 年連続で中止となっていましたでしたが、2022 年度は 3 年ぶりに開催することができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・同時期に市内の各施設で同じ内容の講座が開催されていることから、参加者の取り合いになっている傾向があります。今後の開催の有無や広報のあり方なども含めて、検討していく必要があります。

⑤リサイクル工作展

小学生が夏休み中の自由研究などで作成したリサイクル工作の作品を募集・展示し、豊中市と連携して優秀作品を表彰しました。

期間	内容
8月2日（火）～7日（日）	作品の募集（71件）
8月10日（水）～19日（金）	作品の展示（入賞5件）



<成果や工夫したこと>

- ・例年同様に、センターの周辺と過去に多くの応募があった合計7小学校の全校児童にチラシを配布しました。71件の応募は、2014年度の62件を上回り、環境交流センターとして過去最大の件数となりました。2021年度に小学校へのチラシ配布をする際、同時期に連絡便への希望が重なっており、あやうく配布できないところであったことから、2022年度は早めの配布を行ったことが功を奏したのではないかと考えられます。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・第2期の後半から応募件数が右肩上がりとなっているため、小学生の参加の機会として、今後も引き続き取り組みを継続していきます。

⑥自然観察会

地域の自然環境に親しんでもらうため、豊中市内の自然が残された場所で自然観察会を開催しました。

月日	内容	場所	参加者数		スタッフ数
			おとな	子ども	
5月17日（火） 9:30～12:00	春の自然観察会	万博記念公園	8人	0人	4人
7月31日（日） 9:00～11:30	箕面川の水生生物観察会	箕面川	16人	16人	9人
9月16日（金） 18:00～20:00	秋の夜の鳴く虫観察会	服部緑地	20人	14人	7人
2月4日（土） 9:30～12:00	冬の野鳥観察会	服部緑地	23人	2人	10人
合計	4回		67人	32人	30人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）



＜成果や工夫したこと＞

- ・他市の自然環境を知り、豊中の自然環境の理解を深めることにつなげるため、初めて万博記念公園で観察会を行いました。
- ・2022年度の参加者数は99人で、2021年度の84人から増加しました。新型コロナウイルス感染症対策が緩和する中で、市民に参加してもらえつつあります。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・初めての試みであった万博記念公園は、距離が遠いことなどから参加者が限られてしまいました。今回の結果を参考に、次年度以降の企画を検討する必要があります。

⑦自然学習講座

豊中の自然環境の現状や保全についての理解を深めるため、専門家を講師に講座を開催しました。

月日	テーマ	講師	場所	参加者数	スタッフ数
7月16日（土） 14:00～16:00	島熊山丘陵の地質・地質図を読む	山崎貞治さん（大阪教育大学名誉教授）	中央公民館	35人	5人
10月23日（日） 14:00～16:00	豊中のドジョウ、ホントは外来魚？	松井彰子さん（大阪市立自然史博物館学芸員）	環境交流センター	10人	3人
3月25日（土） 14:00～16:00	地域性種苗を用いたご当地ビオトープ作り	山口勉さん（エスベックミック株式会社）	蛍池公民館	13人	3人
合計	3回			58人	11人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）



<成果や工夫したこと>

- ・島熊山の地質を学ぶ講座は、従来と異なる視点の内容であったことに加えて、島熊山に関心を持つ方など、多く参加を得ることができました。
- ・蛍池公民館など、普段と異なる会場でも開催することができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・島熊山の地質を学ぶ講座以外は、参加人数が限られました。参加者の関心や話題性なども考慮し、できるだけ多くの参加を得られる内容で企画していく必要があります。

⑧自然ふしぎ発見クラブ

豊中の自然にふれあい、体験できる機会として、5歳～小学生とその保護者を対象に行いました。

月日	テーマ・内容	場所	参加者数		スタッフ数
			子ども	おとな	
4月16日（土） 9:30～12:00	竹のふしぎ発見と地下茎の観察	千里中央公園	24人	19人	10人
5月21日（土） 10:00～12:00	原田城跡・勝部遺跡収蔵庫見学と 春の自然観察	原田城跡～勝部 遺跡収蔵庫～千 里川周辺	1人	6人	3人
6月19日（日） 10:00～12:00	田んぼビオトープの生き物調べ	ふれあい緑地	9人	11人	5人
7月30日（土） 18:30～20:30	公園でセミの羽化を見てみません か	千里中央公園	24人	19人	5人
9月25日（日） 9:30～12:00	バッタなど秋の虫観察会	服部緑地	8人	7人	5人
3月11日（土） 10:00～12:00	春の萩の寺公園 野草観察と草木 染め	環境交流センタ ー	7人	6人	3人
合計	6回		73人	68人	31人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）

※バッタなど秋の虫観察会は9月23日（祝）に予定していたが、台風接近のため9月25日に延期



＜成果や工夫したこと＞

- ・2022年度からの広報とよなかのリニューアルに伴い、セミの羽化の募集は掲載できませんでしたが、チラシ等による広報で多くの参加を得ることができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・毎回テーマを変えて実施している春の自然観察は参加者が限られました。子どもたちの関心や話題性なども考慮し、できるだけ多くの参加を得られる内容で企画していく必要があります。

⑨自然環境の保全活動

豊中市内に残された豊かな自然環境を残していくため、残された自然を歩く「豊中の里地探訪」や、「豊中の自然を守る」活動の体験を実施し、自然環境の保全に対する理解を深めました。

【豊中の里地探訪】

月日	内容	場所	参加者数	スタッフ数
4月21日（木） 9:30～12:00	豊中の里地探訪「北条町から天竺川堤防・花咲く桐の大樹」	服部天神駅～北条町～天竺川	23人	4人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）



【豊中の自然を守る】

月日	内容	場所	参加者数	スタッフ数
11月15日（火） 9:00～12:00	猪名川自然林の保全作業と自然観察	猪名川自然林	10人	5人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）

＜成果や工夫したこと＞

- ・里地探訪は、2021年度にこの内容で開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となり、花咲く桐の大樹の見学ができなかったため、2022年度にあらためて実施しました。
- ・豊中の自然を守る活動は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、豊中市のマイクロバスを利用して実施することができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・里地探訪のように、ウォークと観察を兼ねた行事は人気が高いため、引き続き場所を変えながらより多くの方に豊中の自然を知っていただく機会として継続していきます。

⑩制服・学用品のリユース

豊中市内で市民活動に取り組む有志などで構成する「おさがりの会」と連携し、まだ使える制服や学用品をセンターで回収し、必要とする人へのマッチングを行いました。

また、2022年5月に制服・学用品回収 Instagram を非公開で開設し、回収・保管した制服・ランドセル等を掲載して、「おさがりの会」の関係者や生活困窮者支援の活動をしている方と共有しました。

日時	内容	スタッフ数
5月8日（日）～ 6月3日（金）	制服・学用品の回収 制服、ランドセル、文具など約 350 点	—
10月30日（日） 13:00～15:30	制服・学用品の販売（親子ぐるぐるフェス） 制服・体操服、楽器、文具など約 130 点	2 人
随時	生活困窮者支援の関係者を通じて、制服などを提供（2 件）	—



＜成果や工夫したこと＞

- ・回収した制服やランドセル等を整理してデータベースを作成するとともに、Instagram に掲載することができました。
- ・Instagram の開設により、外国人の支援をしているフォロワーの方が、ランドセルを希望する支援者の子どもに Instagram の画像を見せて希望のランドセルを選んでもらうといった活用ができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・社会福祉協議会や国際交流協会への提供に向けての相談が来るなど、取組みが少しずつ広がってきています。一方で、相談を通して支援者側が必要としているニーズを聞き取る機会も増えており、回収や保管の方法などに反映していきます。
- ・制服だけでなく、入学式・卒業式等に着用できるフォーマルの子ども服のニーズが高いことがわかりました。フォーマルの子ども服を確保する方策などもあわせて検討していきます。

⑪施設間連携スタンプラリー

豊中市内で指定管理等により運営している各分野の施設と連携し、施設間の相乗効果を目的に、2018年度から施設間でのスタンプラリーを実施しています。2020年度からは、新型コロナウイルス感染症の影響により、各施設が連携してスタンプラリーを実施することは難しい一方で、とよなか国際交流センターの提案により、各施設で連携して映画の上映を行う「とよなかシネコン」の提案があったことから、これをスタンプラリーに替わる企画と位置付けて実施しています。2021年度に引き続き、2022年度も夏休みに子ども向け（For kids）として実施しました。実施に際しては、センターでの映画上映分を「種まきシアター」として、あしたの暮らしとよなかと共催で行いました。

日時	行事名	参加者数
7月23日(土) 10:00~12:00	種まきシアター「マイクロプラスチックストーリー」	29人

※参加者数は共催団体のスタッフを含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・とよなか国際交流センターを中心に、指定管理施設や公民館などが連携して、同じシネコンの企画として実施することができました。
- ・共催したあしたの暮らしとよなかから、映画を見た参加者に対して、豊中市内の量り売りのお店など紹介し、自分でもプラスチック容器を減らすことができることを伝えました。
- ・2020年度のちょっとロハスな映画祭で上映した作品でしたが、参加者アンケートから参加者の6割以上がセンターに初めての来場者であり、新たな方に映画を見てもらい、センターへも来てもらえる機会となりました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・For kids（子ども向け）が続いたこともあり、今後は大人向けの内容も検討しながら、引き続き各施設と連携した取組みを進めていきます。

⑫ESD セミナー

持続可能な地域づくりをめざして、市民に気軽に参加してもらえるようなセミナーを企画しています。2022年度は千里地域連携センターやとよなかESDネットワークとの連携により、千里文化センター「コラボ」を会場に、小学生が地域の高校生などとSDGsを考える機会として実施しました。

日時	行事名	場所	参加者数
2月19日(日) 13:30~15:00	アップサイクル工作でSDGs体験をしよう！	千里文化センター「コラボ」	40人
2月26日(日) 10:30~12:00	地域の高校生と一緒にSDGsについて考えよう！		22人
合計	2回		62人

※参加者数は講師や協力団体の関係者を含む



<成果や工夫したこと>

- ・2022年度の企画を行うにあたり、ESD とよなか連絡会議において、千里地域連携センターから何か一緒に連携してイベントなどができないかという投げかけがあり、千里文化センター「コラボ」を会場として実施することとなりました。そのため、会場周辺の小学校へのチラシ配布は、環境政策課を通じてではなく、千里地域連携センターから配布してもらうなどの協力を得ました。
- ・2月26日（日）午後は、千里文化センター「コラボ」などの主催により、千里文化センターフォーラム「世代を超えた SDGs2030 年のその先へ」を開催されました。これはセンターの指定管理事業ではないものの、ESD セミナーの3回目にも位置付けをしていただくなど、ゆるやかな連携を行いました。なお、千里文化センターフォーラムの参加者は47人（スタッフを除く）でした。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・ESD セミナーは、センターの指定管理事業が開始する前に環境政策室（当時）が実施していたエコライフセミナーを引き継いだものでした。第3期からも引き続き ESD セミナーとして継続するのか、違う形に引き継いでいくのか、検討が必要です。

⑬キッズクラブ

「ぴったんこ隊 mini」と題して、小学1～4年生を対象に、世界や地域の環境を考えることをテーマとした、参加・体験型の連続講座を実施しました。講座は大阪大学の環境サークル GECS が主体となってプログラムを実施し、当団体で広報や参加者、プログラム先との調整などを担いました。また、講座の開催を通じて、大学生の環境活動の場を提供し、大学生の成長を支援する機会にもしました。

2022年度も夏休みと春休みの期間にそれぞれ3回の連続講座として開催しました。

日時	内容	場所	参加者数
8月21日（日）14:00～16:00	生きものと私たちのくらしはつながっている？	環境交流センター	26人
8月22日（月）10:00～12:00	豊中の自然とふれあおう！	ふれあい緑地	26人
8月23日（火）14:00～16:00	生きものと私たちのくらしを守ろう！	環境交流センター	24人
3月26日（日）14:00～16:00	みちかなごみってどんなもの？リサイクルってなんだろう？	環境交流センター	26人
3月28日（火）14:00～16:00	ごみをひろって、調べてみよう！	庄内コラボセンター	29人
3月29日（水）14:00～16:00	世界のごみ問題を知って、私たちにできることを考えよう！	環境交流センター	24人
合計	6回		155人

※参加者数は大学生のスタッフなどを含む（見学の保護者は含まない）

※小学生の参加登録者数は8月が7人、3月が13人



＜成果や工夫したこと＞

- ・8月の開催では、ふれあい緑地のビオトープで植物や水生生物の観察など、実際に自然に触れる体験を盛り込んで実施しました。
- ・3月の開催では、オープンしたばかりの庄内コラボセンターを会場とし、会場周辺のごみ拾いと集めたごみの分析を行いました。また、ごみ拾いについては、豊中南警察署へ道路使用許可の手続きを行うとともに、環境政策課を通じて3か所の公園の使用許可や、回収したごみの回収なども協力を得ました。
- ・3月の開催では、希望者は環境交流センターに集合・解散し、大学生と一緒に電車で会場を往復した。電車での移動の際やごみ拾いの際は、大学生と小学生をペアにし、さらに全体を確認するスタッフ等を配置しました。
- ・参加者には「パスポート」と題した冊子を事前に送付し、当日には体温や体調を記入して持ってきてもらい、毎回受付で確認するという対応を行いました。
- ・プログラムの質の維持や学生の学びの場として、大学生が企画したプログラムに対して事前のリハーサルや毎回の実施後のふりかえりの場を設けて、助言や支援を行いました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・参加者や保護者の満足度が高い一方で、申込みが定員の半数に満たないなど、参加者が少ないのが課題です。多くの小学生に参加してもらえよう、広報などを検討していきます。

⑭サイエンスカフェ

科学・化学実験や科学・化学にまつわる話題を通して、環境問題や生活とのつながりについて考える場を作りました。多様な世代が考える機会を作るため、子ども対象と大人対象の両方を実施しました。

日時	対象	内容	講師	参加者数
8月20日（土） 10:00～12:00	子ども	水と洗剤を使った環境 おもしろ実験	黒河内繁美さん、清水沙弥加さん （Wakka）	28人
11月6日（日） 10:00～11:30	大人	もみ殻生まれのバスボ ム作り	八馬尚子さん （Hachi' Tsubo）	27人
合計			2回	55人

※8月20日の参加者数は講師や同伴の保護者を含む

※11月6日の参加者数は講師を含む



<成果や工夫したこと>

- ・子ども向けは、2021 年度に参加者の確保が課題でしたが、2022 年度は一転して多くの参加を得て実施することができました。大人向けは、今回初めての企画でしたが、親子での参加も含め、多くの参加を得ることができました。
- ・子ども向け、大人向けともに、サイエンスを体験してもらっただけでなく、子ども向けであれば合成洗剤や水の汚染の問題、大人向けであればプラスチック問題や SDGs などの背景も含めて講師が説明することで、参加者にとって気づきの機会とすることができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・多くの参加を得て実施できており、引き続き取組みを継続していきます。

⑮持続可能な消費に関する講座

誰しも身近な衣・食を通して持続可能な消費を身近に考え、自分の消費行動が環境や社会に影響を与えることを自覚するとともに、環境や社会に配慮した商品選択について知る（グリーンコンシューマーについて知る）ための講座を実施しています。2019 年度はエシカルマーケットと同時開催の講座として実施しましたが、エシカル（ethical）にまだあまり馴染みがないという声も聞かれるため、2020 年度からは持続可能な消費に関する講座をメインとし、エシカルマーケットの要素も入れながら実施しています。2022 年度はコロッケをテーマにして、農業や食材について取り上げました。

日時	内容	講師	参加者数
2 月 22 日（水） 13:00～15:00	持続可能な農業と安心安全な食材	和田友宏さん （合同食品株式会社）	34 人

※参加者数は講師を含む



＜成果や工夫したこと＞

- ・合同食品の方を講師とし、コロッケをテーマにして、安心安全な食材を作るところから取り組んでおられる実状についてお話いただきました。食品ロスや資源循環を取り上げました。そのため、おみやげにコロッケ付として参加者を募集しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・講座の内容は参加者の理解を得る内容ですが、持続可能な消費やエシカルといった理解や認識にまでは広がっていない側面もあります。もともとは多様な参加や環境問題への入口として設定した講座でしたが、今後の講座のあり方について考えていく必要があります。

(4) 地球環境の保全等に関する会議、研修、催し等へのセンターの施設の提供

地球環境の保全等を推進するため、市民・団体・事業者に施設貸出を行うとともに、環境活動を支援する取り組みを行います。

①施設でのイベント掲示板の設置

センターを利用して市民や団体が実施する環境イベント等について、チラシ等を貼ることができる専用の掲示板を設置して、来場者へのPRを促進しました。また、2021年度に施設デザインの見直しで変更したチラシの掲示場所などについて、2022年度も引き続き運用しました。



<成果や工夫したこと>

- ・2021年度に施設デザインの見直しで変更したチラシの掲示場所などについて、2022年度も引き続き運用しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・今後の利用状況を見ながら、利用しやすいものとなるように、引き続き検討していきます。

②コピー、大型プリンター、印刷機、紙折り機の利用

コピー、大型プリンター、印刷機の利用を有料で、紙折り機の利用を無料で提供しました。コピーは、打合せや貸室の利便性向上を主たる目的とし、大型プリンターや印刷機、紙折り機は、環境活動のサポートはもとより、地域の多様な取り組みに利用することができるため、施設への来場のきっかけとしても活用しました。2022年度は、2021年度と比べていずれも利用件数が増加しました（コピー55件→64件、大型プリンター18件→31件、印刷機37件→45件）。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
コピー	9	11	6	4	3	6	6	3	2	1	8	5	64件
大型プリンター	2	1	4	4	1	1	2	7	3	1	2	3	31件
印刷機	1	5	6	1	2	5	0	5	6	5	3	6	45件

※各月の数字は利用件数

※紙折り機は無料のため、利用件数をカウントしていない



＜成果や工夫したこと＞

- ・適切に運営しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・2022年度は、2021年度と比べていずれも利用件数が増加しており、いずれも一定のニーズが認められることから、今後も引き続き実施していきます。
- ・紙折り機は無料利用のため、利用件数をカウントしていないもの、うまく紙折りができないなどの不具合があり、年度途中からは利用を中止しました。紙折り機の更新などの対応が必要です。

③打合せなどに伴う物品の貸出し

ロビーや会議室で打合せや作業を行う際、円滑に進めることができるように、関連する物品などを提供しました。傘は「貸し傘」として「そね21の会」と連携して取り組みました。

- ・裁断機
- ・ラミネーター（ラミネートフィルムは希望者に有料）
- ・貸傘
- ・リユースカップ（会議室の利用時など）



＜成果や工夫したこと＞

- ・適切に運用しました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・貸出しのニーズがあるかも確認しながら、今後も運用を行っていきます。

④施設デザインの検討

2020 年度に実施された施設の指定管理者選定評価委員会の評価結果（中間評価）にて、施設を気軽に利用してもらうためのきっかけづくりや、施設の目的が理解されやすいような表示など、さらなる工夫が必要であると指摘されたことを受けて、2021 年度にファンクラブメンバーを対象とした「交流カフェ」を通して、施設デザインについての意見やアイデアを出してもらうような機会を作り、さらなる改善へとつなげてきました。

2022 年度も事業計画書において継続する旨を記載していましたが、利用者などから目立った改善の意見が聞かれなかったことから、2022 年度はさらなる改善等を実施しませんでした。

(5) その他

①回収拠点

リユース・リサイクルのための回収拠点として、以下の物品を回収しました。なお、ベルマークは南桜塚小学校 PTA、子ども服は豊中市家庭ごみ事業課、傘はそね 21 の会と連携しています。

回収品	対象	対応
ペットボトル	主に他へ提供する物品	豊中市の委託先が週 2 回程度回収
インクカートリッジ		豊中市のインクカートリッジ里帰りプロジェクトとして実施 9 月 16 日（金）に 1 箱、1 月 19 日（木）に 2 箱を回収先へ送付
小型家電		豊中市が週 1 回程度回収
蛍光灯・電池類		豊中市が週 1 回程度回収
ベルマーク		回収したベルマークを地域へ提供 6 月 2 日（木）、8 月 25 日（木）、9 月 18 日（日）に南桜塚小 PTA へ提供
子ども服 （期間限定）	主にセンターで活用する物品	9 月 6 日（火）～30 日（金）に 70～160cm の子ども服約 600 枚を回収し、家庭ごみ事業課へ提供
傘		貸し傘用として利用 2022 年度は団体への提供実績なし



<成果や工夫したこと>

- ・ファンクラブメンバーであれば、回収物の持参でもポイントがもらえることから、ペットボトル等をセンターに持ち込むことが定着している方も一定確認されます。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・回収した物品の提供先とも連携しつつ、引き続き適切に運用していきます。

②不用品交換コミュニティボードの運営

2012 年度までリサイクル交流センターが実施していた不用品交換コミュニティボードを引き継ぎ、センター内での掲示とインターネットでの掲載を行いました。また、近隣市で同様の仕組みを運営している施設の情報を、ホームページに掲載して紹介しました。

【「譲りたい」に関する応募・結果】

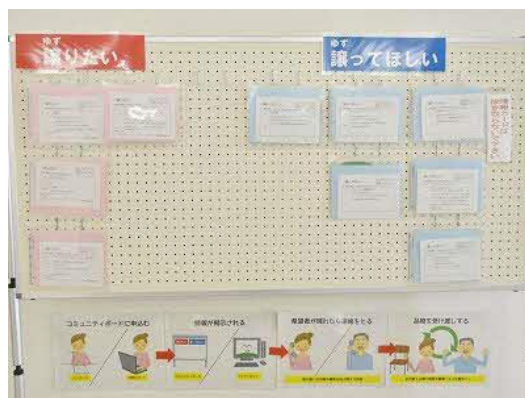
	掲出件数	受付	成立	期限切れ	辞退	不成立	交渉中
4月分	11件	4件	1件	1件	1件	0件	1件
5月分	8件	0件	1件	2件	1件	1件	0件
6月分	8件	4件	0件	2件	0件	0件	3件
7月分	10件	4件	0件	2件	2件	0件	3件
8月分	10件	4件	3件	0件	2件	0件	0件
9月分	19件	14件	6件	0件	3件	1件	1件
10月分	17件	7件	6件	2件	0件	1件	1件
11月分	28件	19件	7件	0件	4件	1件	1件
12月分	21件	5件	6件	2件	3件	2件	0件
1月分	14件	4件	2件	1件	1件	0件	0件
2月分	11件	1件	0件	3件	0件	0件	0件
3月分	17件	9件	4件	1件	4件	0件	0件
年度通算	82件	75件	36件	16件	21件	6件	0件

※2021年度から繰り越した掲出7件、2023年度へ繰り越した掲出8件

【「譲ってほしい」に関する応募・結果】

	掲出件数	受付	成立	期限切れ	辞退	不成立	交渉中
4月分	5件	2件	1件	1件	0件	0件	0件
5月分	5件	2件	0件	0件	0件	0件	0件
6月分	5件	0件	0件	1件	0件	0件	1件
7月分	4件	0件	0件	2件	0件	0件	1件
8月分	2件	0件	0件	1件	0件	0件	1件
9月分	2件	1件	0件	0件	0件	1件	1件
10月分	1件	0件	0件	0件	0件	0件	1件
11月分	4件	3件	0件	0件	1件	0件	1件
12月分	7件	4件	0件	0件	0件	0件	1件
1月分	8件	1件	0件	0件	0件	0件	1件
2月分	8件	0件	0件	2件	0件	0件	1件
3月分	8件	2件	0件	4件	0件	0件	1件
年度通算	18件	15件	1件	11件	1件	1件	1件

※2021年度から繰り越した掲出3件、2023年度へ繰り越した掲出4件



＜成果や工夫したこと＞

- ・2022年度の新規受付は、譲りたいが75件、譲ってほしいが15件で、2021年度の36件、7件からそれぞれ倍増しています。また、譲りたいで出された約半数が成立しており、参加者同士で物品の循環が進みました。過去の利用者が新たな物品で再び申込みをする、いわゆるリピーターも多くなっています。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・2020・2021年度は広報とよなかへ掲載したことで応募が急増した効果がありましたが、2022年度から広報とよなかのリニューアルにより、掲載できる紙面の確保が難しい状況です。広報誌以外で広くPRする方策を検討する必要があります。

○当初の事業計画以外の取組み

年度当初の事業計画では予定していませんでしたが、事業者と連携してカレンダーの無料配布を行いました。

2月8日（水）～ 11日（祝）	カレンダーの無料配布 ネットトヨタニューリー北大阪提供 約40点を配布
--------------------	--

4. 施設の利用状況

センターの年間の来場者数は 15,763 人で、2021 年度の 11,900 人から増加しました。2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大予防による臨時休館があったことを考慮しても、2022 年度の方が多い来場者数となりました。ただし、最高サービス水準の 18,000 人には及びませんでした。

会議室の稼働率は 69.9%で、2021 年度の 70.0%（実績値）と同程度でした。内訳をみると、会議室 1（70.7%→70.5%）・会議室 2（63.7%→56.5%）・展示スペース（75.7%→82.8%）となっており、会議室 2 の稼働率が減少した一方で、展示スペースの稼働率が上昇しました。

会議室の申込状況は、とよなか公共施設予約案内システム（新システム）の導入に伴い、2022 年度からは本申込みの件数ではなく、仮予約も含めた申請番号の取得した件数としています。そのため、同じ条件で比較することができないものの、2021 年度の 514 件から 584 件へと増加しています。

会議室の利用件数は、とよなか公共施設予約案内システム（新システム）の導入に関わらず、同様の条件でカウントしており、2021 年度の 434 件から 480 件へと増加しました。新型コロナウイルス感染症の流行前であった 2018 年度は利用件数が 486 件であったため、貸室の利用においては同程度の水準まで回復したと言えます。

①来場者数

	一般	会議室等利用		合計	(参考) 昨年度
		環境目的	環境目的以外		
4 月	720 人	452 人	68 人	1,240 人	661 人
5 月	763 人	289 人	12 人	1,064 人	0 人
6 月	713 人	555 人	54 人	1,322 人	344 人
7 月	623 人	412 人	39 人	1,074 人	1,046 人
8 月	1,038 人	434 人	22 人	1,494 人	1,297 人
9 月	756 人	1,083 人	39 人	1,878 人	1,219 人
10 月	682 人	691 人	33 人	1,406 人	1,155 人
11 月	830 人	433 人	4 人	1,267 人	1,711 人
12 月	646 人	676 人	8 人	1,330 人	1,615 人
1 月	690 人	302 人	18 人	1,010 人	856 人
2 月	601 人	492 人	26 人	1,119 人	828 人
3 月	751 人	808 人	0 人	1,559 人	1,168 人
年度通算	8,813 人	6,627 人	323 人	15,763 人	11,900 人

②会議室等の稼働率

	会議室 1	会議室 2	展示 スペース	施設全体	(参考) 昨年度
4 月	61.5%	69.2%	100.0%	76.9%	69.8%
5 月	42.3%	50.0%	100.0%	64.1%	—
6 月	65.4%	57.7%	100.0%	74.4%	50.0%
7 月	59.3%	63.0%	96.3%	72.8%	70.4%
8 月	69.2%	57.7%	76.9%	67.9%	71.8%
9 月	73.1%	69.2%	96.2%	79.5%	71.8%
10 月	80.8%	46.2%	100.0%	75.6%	76.5%
11 月	96.2%	38.5%	19.2%	51.3%	65.3%
12 月	75.0%	62.5%	58.3%	65.3%	63.9%
1 月	54.2%	45.8%	83.3%	61.1%	62.5%
2 月	79.2%	62.5%	83.3%	75.0%	73.6%
3 月	88.9%	55.6%	77.8%	74.1%	79.0%
年度通算	70.5%	56.5%	82.8%	69.9%	70.0%

③会議室等の申込状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	40	46	64	65	51	67	40	38	41	47	50	35	584件
貸室	40	46	64	65	51	67	40	38	41	47	50	35	584件
指定	10	20	16	14	16	19	13	12	13	21	26	10	190件
自主	1	1	4	4	2	7	1	1	1	3	1	0	26件
環境	27	24	40	44	30	38	19	24	23	21	23	23	336件
環境外	2	1	4	3	3	3	7	1	4	2	0	2	32件
備品	5	13	14	23	12	26	13	10	18	16	9	9	168件
指定	1	7	4	4	2	5	4	4	6	7	4	3	51件
自主	1	0	1	3	1	3	1	0	1	3	1	0	15件
環境	3	5	7	15	8	17	5	6	9	6	4	6	91件
環境外	0	1	2	1	1	1	3	0	2	0	0	0	11件
キャンセル	2	1	1	4	2	0	0	1	0	1	0	0	12件

※とよなか公共施設予約案内システム（新システム）の導入に伴い、2022 年度からは本申込みの件数ではなく、仮予約も含めた申請番号の取得した件数としている

※仮予約後の取り消しや、同一の申請番号での追加手続きを考慮していない。

指定管理は受付開始前の先押さえ分を含んでいる。

操作ミスやテスト操作などによる取得分は含んでいない。

※キャンセルのうち、使用料の還付請求は **1 件**

④会議室等の利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	38	31	37	42	42	48	44	38	46	27	42	45	480件
貸室	38	31	37	42	42	48	44	38	46	27	42	45	480件
指定	7	8	8	10	16	12	13	9	12	11	17	23	146件
自主	3	0	1	2	1	2	6	1	4	1	0	1	22件
環境	23	22	26	27	22	31	21	26	29	13	24	21	285件
環境外	5	1	2	3	3	3	4	2	1	2	1	0	27件
備品	6	8	12	11	14	16	23	11	14	11	9	17	152件
指定	1	4	3	4	5	1	5	4	2	5	4	8	46件
自主	2	0	1	2	0	2	6	1	4	1	0	1	20件
環境	3	4	7	3	8	12	10	6	8	4	5	8	78件
環境外	0	0	1	2	1	1	2	0	0	1	0	0	8件

⑤使用料（利用料金）の収入の状況

	合計		現金		クレジットカード		庁内振替	
月	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
4月	2	5,900	2	5,900	0	0	0	0
5月	1	6,800	1	6,800	0	0	0	0
6月	3	10,100	2	9,200	0	0	1	900
7月	3	3,300	3	3,300	0	0	0	0
8月	2	3,100	2	3,100	0	0	0	0
9月	3	11,800	3	11,800	0	0	0	0
10月	6	7,900	4	5,800	1	900	1	1,200
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	2	14,200	2	14,200	0	0	0	0
1月	2	4,100	1	2,900	0	0	1	1,200
2月	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	1	1,500	0	0	1	1,500	0	0
合計	25	68,700	20	63,000	2	2,400	3	3,300

※還付1件（申込1件分・700円）があったため、2022年度の決算額は68,000円

⑥来場者数に含まれない参加者数

【施設外での開催分】

内容	参加者数	備考
身近な生き物調査	54 人	説明会・一斉調査（センター外での実施分のみ）
自然観察会	129 人	4 回
自然学習講座	56 人	2 回
自然ふしぎ発見クラブ	156 人	5 回（センター外での実施分のみ）
自然環境の保全活動	42 人	2 回
ESD セミナー	62 人	2 回
ぴったんこ隊 mini	55 人	2 回（センター外での実施分のみ）
合計	554 人	

※内容はすべて「3. 管理運営業務の実施状況」に記載

※ここでいう参加者数とは、センター内で実施したと仮定したら来場者数にカウントされる人数を意味しているため、スタッフ数も含んでいる。

※2022 年度はオンラインでの実施はなかった

5. 管理運営業務に係る経費の収支状況

2022 年度 豊中市立環境交流センター指定管理業務 収支決算書

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

(単位:円)

収入						
項目	合計	1. 交流の場の提供	2. 情報収集・提供	3. 講座の開催	4. その他	施設管理
指定管理委託料	15,895,000					
事業収入	264,840	32,500	0	68,500	0	163,840
収入合計	16,159,840					
支出						
科目	合計	1. 交流の場の提供	2. 情報収集・提供	3. 講座の開催	4. その他	施設管理
人件費						
賃金手当	9,848,837					
通勤交通費	241,320					
法定福利費	1,700,191					
退職金共済制度掛金	410,000					
福利厚生費	14,669					
職員研修参加費	0					
賃金振込手数料	27,115					
人件費計	12,242,132					
事業費						
外注費	1,240,712	0	0	0	0	1,240,712
備品費	0	0	0	0	0	0
図書費	30,158	0	30,008	150	0	0
印刷費	232,398	6,095	45,015	58,735	150	122,403
通信運搬費	413,849	55,575	2,059	21,656	2,848	331,711
消耗品費	280,600	33,846	35,066	53,522	5,212	152,954
旅費交通費	95,640	19,000	24,600	47,840	4,200	0
諸謝金	483,050	51,050	0	432,000	0	0
保険料	23,305	0	1,200	16,650	0	5,455
賃借料	367,764	0	0	3,000	0	364,764
光熱水費	1,275,407	0	0	0	0	1,275,407
租税公課	800	0	0	0	0	800
雑費	70,240	10,624	2,964	49,502	0	7,150
事業費計	4,513,923	176,190	140,912	683,055	12,410	3,501,356
支出小計	16,756,055					
消費税及び地方消費税	734,540					
収支差額	△1,330,755					

(参考) 施設管理の費用内訳

内容	科目	金額	備考
電話代	通信運搬費	134,286	
阪急緊急用専用回線使用料	通信運搬費	33,104	
インターネット利用料	通信運搬費	85,085	プロバイダ、ドメイン
郵便代	通信運搬費	1,796	
wifi 利用料	通信運搬費	77,440	5月から(11か月分)
リース代	賃借料	364,764	複合機、大型プリンター、紙折機 印刷機(再リース)
コピー代	印刷費	122,403	
消耗品(全般)	消耗品費	140,298	
消耗品(新型コロナ対策)	消耗品	12,656	マスク
修繕費用	外注費	200,970	空調機器のリア膨張弁等取替 照明器具の安定器の交換 誘導灯のバッテリー取替 事務室窓・ブラインド修繕
その他の修理	外注費	24,200	印刷機修理
電気代	光熱水費	1,251,448	
水道代	光熱水費	23,959	
保険	保険代	5,455	賠償責任保険
印紙代等	租税公課	800	印紙代
清掃委託	外注費	282,150	
ごみ処理委託	外注費	20,592	
機械警備委託	外注費	211,200	
消防用設備保守点検	外注費	66,000	
空調設備保守点検	外注費	319,000	
自動扉保守点検	外注費	116,600	
振込手数料(外注費他)	雑費	7,150	
合計		3,501,356	